

東北地方 3 か月予報

(1 1 月から 1 月までの天候見通し)

平成 2 4 年 1 0 月 2 5 日
仙台管区气象台発表

< 予想される向こう 3 か月の天候 >

向こう 3 か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

1 1 月 東北日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

気温は、高い確率 5 0 % です。降水量は、東北太平洋側で平年並または多い確率ともに 4 0 % です。

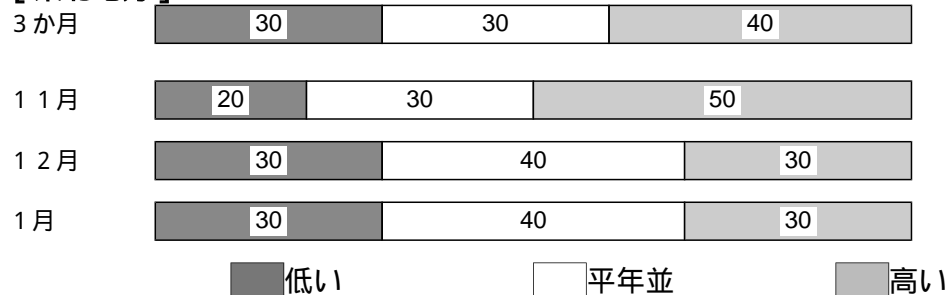
1 2 月 東北日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

1 月 東北日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

< 向こう 3 か月の気温、降水量、降雪量の各階級の確率 (%) >

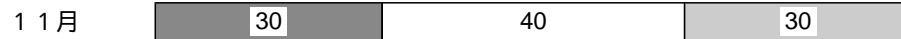
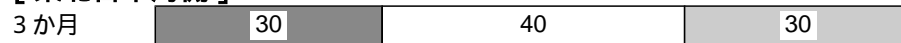
< 気温 >

[東北地方]

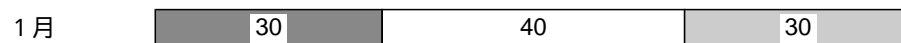
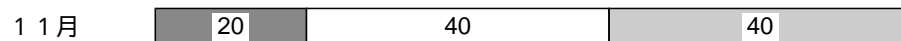


< < 降水量 > >

[東北日本海側]



[東北太平洋側]



■ 少ない □ 平年並 ■ 多い

< < 降雪量 > >

[東北日本海側]



■ 少ない □ 平年並 ■ 多い

< 次回発表予定等 >

1 か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は10月26日

3 か月予報：11月22日（木） 14時

11月の予報については、新しい資料による次回以降の1か月予報を適宜ご利用下さい。

なお、最近の天候経過と新しい予測資料をふまえ寒候期の天候について検討しましたが、9月25日に発表した寒候期予報の内容に変更はありません。

< 参考資料（ 平年並の範囲等 ） >

（ １ ） 平年値（月・ ３ か月平均気温、降水量、日照時間、降雪量）

	気 温()				降 水 量(mm)				日照時間(時間)			
	1 1月	1 2月	1月	1 1月～ 1月	1 1月	1 2月	1月	1 1月～ 1月	1 1月	1 2月	1月	1 1月～ 1月
青森	6.8	1.5	-1.2	2.4	137.7	150.8	144.9	428.8	87.6	52.8	51.3	193.0
深浦	7.7	2.5	-0.2	3.3	146.9	132.9	101.8	378.5	64.9	31.6	26.9	125.3
むつ	6.5	1.3	-1.4	2.1	117.4	103.7	103.1	320.6	102.9	71.2	71.6	247.5
八戸	6.9	1.8	-0.9	2.6	62.0	49.1	42.8	149.1	133.3	124.5	130.8	390.2
秋田	7.9	2.9	0.1	3.6	185.8	160.1	119.2	461.5	82.7	45.1	39.9	169.1
盛岡	5.9	1.0	-1.9	1.6	90.2	70.8	53.1	208.5	116.9	101.6	116.9	336.7
大船渡	8.3	3.6	0.8	4.2	94.1	50.4	49.9	190.8	134.9	132.0	142.8	410.6
宮古	7.8	3.1	0.3	3.7	80.1	64.8	60.6	201.4	147.3	147.4	161.0	457.0
仙台	9.4	4.5	1.6	5.2	65.1	36.6	37.0	134.3	139.6	138.6	148.1	425.2
石巻	8.5	3.5	0.7	4.2	66.6	33.6	34.9	134.3	147.5	149.3	165.5	462.8
山形	7.4	2.6	-0.4	3.2	84.5	82.7	83.0	249.2	99.2	80.7	84.8	265.0
新庄	6.4	1.6	-1.1	2.3	188.7	223.6	208.2	613.2	62.3	38.8	38.5	138.8
酒田	9.3	4.5	1.7	5.1	225.0	204.0	168.1	594.9	81.9	43.9	39.4	166.1
福島	9.2	4.4	1.6	5.0	65.5	41.8	49.4	155.6	128.3	125.2	132.0	384.7
若松	7.1	2.2	-0.6	2.9	78.9	93.8	95.3	267.3	86.8	70.7	78.5	235.5
白河	7.8	3.0	0.3	3.7	69.8	36.0	38.9	143.5	144.8	152.0	151.2	447.2
小名浜	11.1	6.4	3.8	7.1	82.4	44.4	52.8	179.2	160.5	183.6	189.8	533.6

	降 雪 量(cm)			
	1 1月	1 2月	1月	1 1月～ 1月
青森	32	153	225	411
深浦	9	67	110	188
むつ	18	91	168	280
八戸	6	40	77	123
秋田	11	74	138	224
盛岡	10	53	85	148
大船渡	2	11	19	31
宮古	0	16	33	50
仙台	0	9	21	33
石巻	1	6	14	22
山形	10	77	148	241
新庄	22	154	283	461
酒田	8	56	122	186
福島	1	28	74	106
若松	6	83	171	265
白河	2	21	58	84
小名浜	-	-	-	-

欠測により平年値を求めるための資料年数（観測値のある年数）が各月毎に異なることなどにより、 ３ か月平年値等が各月の平年値から求めた値と一致しないことがあります。小名浜の降雪量の平年値はありません。

（ ２ ） 1981 ～ 2010 年のデータに基づいたこの予報期間の地域平均の気温、降水量、降雪量の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

要 素	予報対象地域	1 1月	1 2月	1月	1 1月～ 1月
気温平年差()	東北地方	-0.3 ～ +0.5	-0.1 ～ +0.4	-0.3 ～ +0.7	-0.2 ～ +0.4
	東北日本海側	-0.3 ～ +0.5	-0.2 ～ +0.5	-0.3 ～ +0.6	-0.3 ～ +0.4
	東北太平洋側	-0.3 ～ +0.5	-0.1 ～ +0.4	-0.3 ～ +0.7	-0.2 ～ +0.4
降水量平年比(%)	東北地方	85 ～ 105	74 ～ 97	74 ～ 107	85 ～ 114
	東北日本海側	93 ～ 105	91 ～ 105	88 ～ 109	95 ～ 108
	東北太平洋側	69 ～ 113	60 ～ 101	57 ～ 116	80 ～ 117
降雪量平年比(%)	東北地方	29 ～ 94	74 ～ 116	90 ～ 107	80 ～ 116
	東北日本海側	22 ～ 108	74 ～ 118	94 ～ 111	85 ～ 111
	東北太平洋側	28 ～ 80	69 ～ 123	81 ～ 99	79 ～ 111

< 参考資料（ 利用上の注意 ） >

（ １ ） 気温（降水量）等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の 3 つの階級で予報します。階級の幅は、1981 ～ 2010 年の 30 年間ににおける各階級の出現率が等分（それぞれ 3 3 %）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。

（ ２ ） 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった 1 0 % 以下や 6 0 % 以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（ 3 0 %、 4 0 % ）の確率しか付けられません。

（ ３ ） 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。

東北地方 3か月予報解説資料（11～1月）

平成24年10月25日 仙台管区气象台

1. 向こう3か月の確率予報の特徴

各階級の確率の偏りが小さい場合は記述していない。

11～1月	
11月	気温は、高い確率50%です。 降水量は、東北太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。
12月	
1月	

2. 寒候期予報の見直しについて

最近の天候経過と新しい予測資料をふまえ寒候期の天候について検討しましたが、9月25日に発表した寒候期予報の内容に変更はありません。

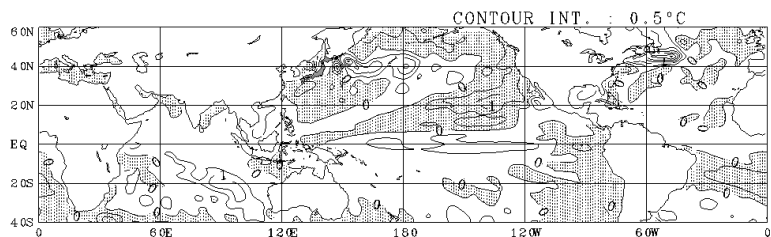
3. 数値予報による海洋と大気の流れの予想

海面水温(上図)は、太平洋中部の赤道域を中心に平年より高いが、偏差は小さく、この夏に発生したエルニーニョ現象は持続する可能性と平常の状態になる可能性が同程度の見込み。

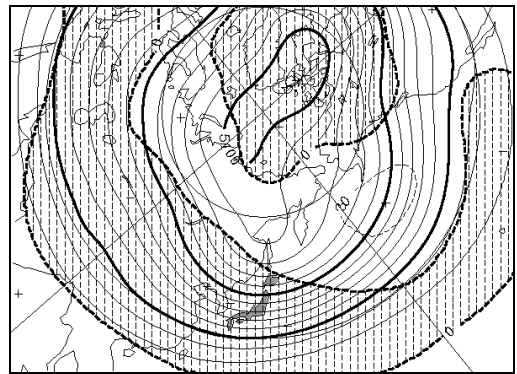
大気にはエルニーニョ現象の影響が弱いながら現れ、熱帯の対流活動(図略)は、太平洋中部の赤道域で平年より活発となり、インドネシア付近やフィリピン周辺で不活発となる。この影響でフィリピン周辺では高気圧が強く、日本の南岸では平年に比べ南からの暖かく湿った空気の影響を受けやすい。

500hPa 高度(中図)は、アリューシャン付近に顕著な正偏差があり、東シベリアにかけて気圧の尾根となっている。極東域の中緯度帯は広く負偏差となるが、偏差は小さい。東北地方への寒気の影響は平年程度の見込み。

11月はカムチャツカ付近でブロッキング高気圧が発達し、中国東北区の気圧の谷が明瞭となる。北日本には南から暖かく湿った空気が流れ込みやすくなり、周期的に通過する低気圧の影響を受けやすい。前回の3か月予報では、冬の訪れが早くなる可能性があるとして予報したが、その可能性は小さくなった。



3か月平均の海面水温偏差の予想図
等値線間隔は0.5℃。陰影部は負偏差。



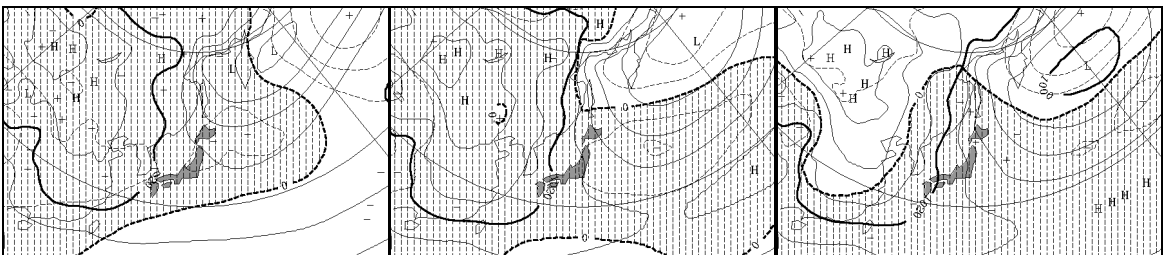
3か月平均の500hPa高度と偏差の予想図
実線は高度(間隔60m)、点線は偏差(間隔30m)。陰影部は負偏差で一般に寒気に対応し、白抜きは正偏差で一般に暖気に対応する。

月別の予想(下図)

11月: 日本の南は正偏差で、北日本から日本の東で大きい負偏差となる。東北地方は低気圧の影響を受けやすく、気温は高く、東北太平洋側の降水量は多い傾向の見込み。また、アリューシャン低気圧の発達に平年並で、西高東低の冬型の気圧配置の強さは平年程度の見込み。

12月: フィリピン付近で高気圧が強い予想のため、日本の南の正偏差を本州南岸付近まで広げて考える。このため、日本付近の負偏差は弱めて考え、西高東低の冬型の気圧配置の強さは平年程度の見込み。

1月: フィリピン付近の高気圧の勢力は12月よりも弱まる。西高東低の冬型の気圧配置の強さは平年程度の見込み。



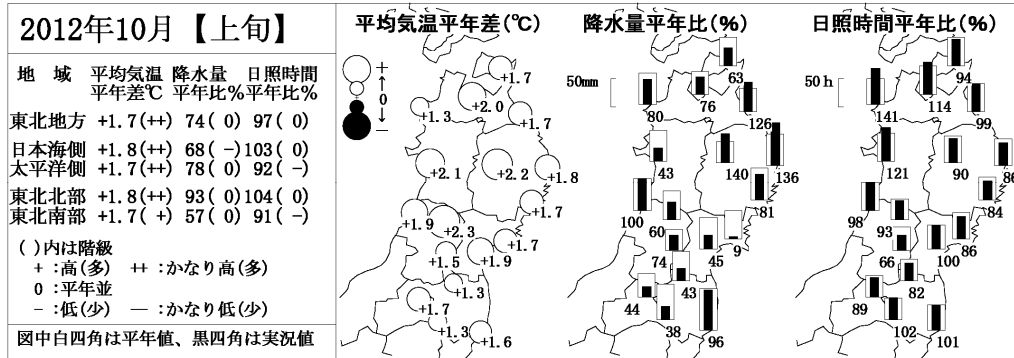
月平均の海面気圧と偏差の予想図

左から11月、12月、1月。実線は海面気圧(間隔4hPa)、点線は偏差(間隔1hPa)。陰影部は負偏差。

4. 最近の天候経過

10月上旬：期間の中頃までは、台風や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かったが、期間の終わりは移動性高気圧におおわれて晴れた。台風に向かって南から暖かい空気が流れ込んだ時期があり、気温はかなり高くなった。1日は台風第17号が東北地方を縦断した影響で東三陸側を中心に大雨となり、岩手県では日降水量が100ミリを超えたところがあった。3日から4日にかけては台風第19号が日本の東を北上した影響で東北太平洋側で大雨のところがあった。5日は気圧の谷の影響で山形県で大雨のところがあった。

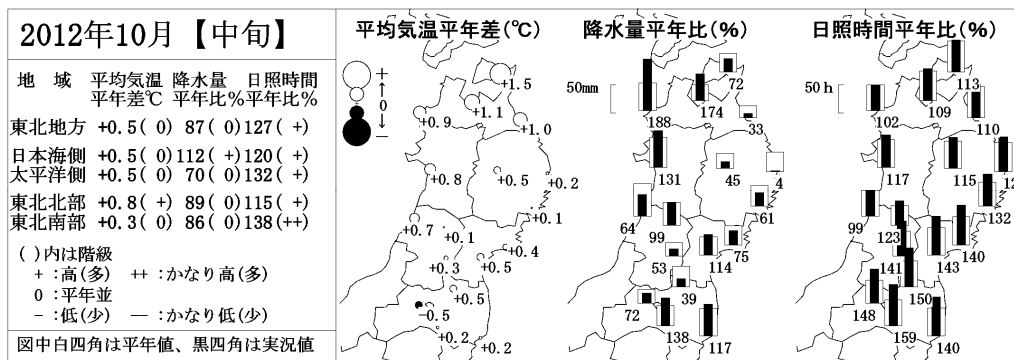
平均気温は東三陸側でかなり高く、東北南部で高い。降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で平年並。日照時間は東三陸側で平年並、東北南部で少ない。



10月上旬の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)

10月中旬：この期間、東三陸側は気圧の谷と高気圧が交互に通過したため、天気は数日の周期で変わった。東北南部は高気圧におおわれ晴れの日が多かった。寒冷前線の影響で、11日は秋田県と宮城県で、17日は青森県、秋田県、福島県で大雨のところがあった。

平均気温は東三陸側で高く、東北南部で平年並。降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。日照時間は東三陸側で多く、東北南部でかなり多い。

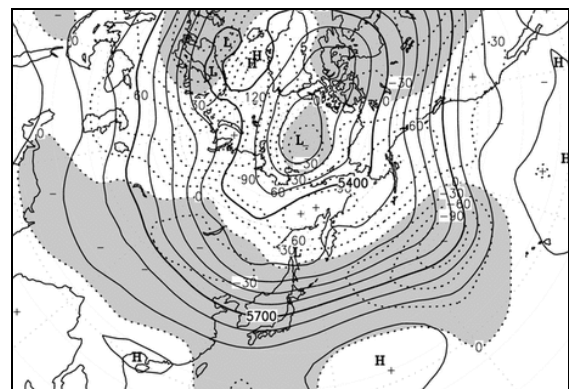


10月中旬の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)

5. 今月の循環場の特徴

10月(20日まで)：500hPa高度は、チベット付近から北太平洋にかけて帯状に負偏差となった。モンゴル付近とアリューシャンの南で偏差が大きく、日本付近の偏差は小さかった。また、日本の南も負偏差で、上旬は日本の南から本州付近へ台風が北上した。

東北地方は、上旬中頃までは台風や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が続いたが、上旬終わりから中旬にかけては気圧の谷と高気圧が交互に通過するようになった。



10月1日～20日の平均500hPa高度

実線は高度(間隔60m)、点線は偏差(間隔30m)。陰影部は負偏差。

<参考資料>

平年の天気出現日数(日)

	青 森		秋 田		盛 岡		仙 台		山 形		福 島	
	晴れ	降水	晴れ	降水	晴れ	降水	晴れ	降水	晴れ	降水	晴れ	降水
11月	9.8	16.9	8.9	18.1	14.3	11.9	18.0	6.2	10.9	11.9	16.3	6.6
12月	5.6	20.7	4.2	21.4	13.7	11.2	18.6	4.7	8.9	14.1	16.5	6.9
1月	4.7	22.3	3.2	21.2	15.3	9.9	19.7	5.3	9.7	15.1	17.3	8.1

晴れ日数は「日照率40%以上の日数」、降水日数は「日降水量1mm以上の日数」。